

シグマ研究委員会
5年度第2回放射化断面積WG会合議事録

日時： 1994年1月13日（木） 13:30～17:30

場所： 日本原子力研究所本部 第2会議室

出席者： 浅見哲夫（データ工学）、渡部隆（川重）、山室信弘（元東工大）、
八谷雅典（データ工学）、矢野真理（三菱原子力）、池田裕二郎、
中島豊（以上原研）

配布資料

1. FNS 誘導放射能実験によるJENDL放射化断面積ライブラリーの積分テスト（その2）（池田）
2. JENDL 放射化断面積ファイルに収録されているデータのリスト（中島）

議事

1. JENDL放射化断面積データの積分テスト結果（その2）

- (1)FNSで測定した実験データを用いて行ったJENDL放射化断面積データの積分テスト（その2）の結果を池田氏が報告した。テストした核種はMg,Zr,Mo,Ta,W,で、C/E 値が1 から離れているデータがかなりあり、他のライブラリーのデータに比べてもJENDLが優れているとは言えない。
- (2)しかし、1からずれる原因は全てが評価値にあるとは言えず、FNS での測定値にも多少の問題があると思われるので、両方のデータを今後検討することとした。

2. JENDL 放射化断面積ファイルの完成方法

今後の方針を次のとおり決定した。

- 1.標的核が安定なものは今年度末に全部ファイル化する。
- 2.標的核が不安定なものについては、池田氏がどの程度の半減期のものが実用上問題になるか検討し、その結果に基づいて評価する標的核の半減期の下限を決定する。不安定核の放射化断面積の評価は来年度中に完了する。
- 3.実験データのない (n, γ) 反応断面積は必ずしも評価対象としない。
- 4.生成核の半減期が10⁷年以上の反応は放射化反応とは見なさない。
- 5.反応の全断面積をファイル3に収納する。
- 6.評価対象元素のプライオリティを次のように変更し、新たに対象となったものは、来年度評価する。

Sc	3	→	2
Tc-99	3	→	1
Rh	3	→	2
I	3	→	2
Pt	3	→	2
Au	3	→	1

3. その他

次回のWG会合は6～7月に開催する。